

## 「震災とマスコミ報道～知る・切り取る・伝える」開催報告



日本大震災の発生から 1000 日目となった 12 月 4 日、茨城大学人文学部では公開シンポジウム「震災とマスコミ報道」を開催しました。＜第一部＞では、被災地出身の小野田明君（人文学部社会科学科 4 年）が 2013 年初頭から撮りためてきた被災者へのインタビュー映像をもとに「ある町」を

上映。小野田君の視点からみた「ふるさと」の人々の語りは、美しい映像と音楽とともに共感を呼びました。＜第二部＞では、今年 3 月までは NHK のニュース報道で最前線に立たれ、その後は市民メディアのプラットフォーム構築に奔走されている堀潤氏を講師として、ご講演いただきました。キーワードは、Open Journalism と Public Access。とくに Public Access というコンセプトは、市民自らの情報発信という点で非常に参考になるものでした。

＜第三部＞のパネル・ディスカッションでは、東海村元村長の村上達也氏と茨城新聞記者の松下倫氏にも加わっていただき、メディア論が専門の村上信夫先生にコーディネータを務めていただきました。すでに震災報道の量は減少しており、問題の風化はますます来年 3 月以降強まりそうであることが指摘されました。来年 3 月以降を見越して、実際には、震災・原発関連の問題



はまだまだ山積しているなか、マスコミは被災地・被災者に今後もどう向き合い、市民はマスコミ報道とどう向き合うか、を議論しました。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

（人文学部・原口弥生）